

2018年度第3四半期決算説明カンファレンスコール（2019年5月13日開催）
およびアナリストミーティングの主な質疑応答（サマリー）

【3Q実績】

① 2月の修正後の業績予想に対して、3Qの受注・売上・営業利益は計画通りだったのか？

A: 受注は、3Qで予定していた中国向けスマートフォン用 OLED 製造装置の量産ライン向けの継続受注が決まるなど、2月に見直した予想に沿った実績となり、売上についてもほぼ計画通りでした。3Qの営業利益等利益項目は、下期予想よりも高めとなっています。

② 3Qの受注面で特筆すべきことがあれば教えてください。

A: 予定通り、中国向けスマートフォン用 OLED 製造装置の量産ラインで継続して受注しました。半導体関連では、メモリ関連の投資計画変更の影響で前年同期比減少していますが、今上期に初めて参入したロジック分野では、2社目の半導体メーカーでも採用が決まりましたので、来期以降、徐々に半導体関連の受注増に貢献してくると思っています。

③ 3Q単独のFPD関連の受注高・売上高の用途別内訳は？

A: FPD 関連の受注 248 億円のうち、LCD が数%、OLED 関連が 9 割、他 1 割弱となりました。売上高 201 億円のうち、LCD 5 割弱、OLED 3 割半ば、他 2 割弱となりました。

④ 3Q単独の半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A: 半導体電子部品関連の受注 72 億円の受注のうち、メモリ関連が 5 割弱、ロジック無し、電子部品が 2 割半ば、パワー半導体が 2 割弱、LED が数%、実装が 1 割弱となりました。売上高 91 億円のうち、メモリ関連が 4 割弱、ロジック数%、電子部品が 4 割弱、パワー半導体が 1 割半ば、LED が数%、実装が数%となりました。

【年間予想】

⑤ 親会社株主に帰属する当期純利益のみ修正しているが、売上や営業利益など他の項目の修正はないのか？

A: 2月に修正した業績予想から売上高等に特に変更はなく、3Qの投資有価証券売却益を特別利益として計上したこと等による親会社株主に帰属する当期純利益のみの修正となりました。売上高や営業利益・経常利益につきましては、2月に修正開示しました予想から変更はありません。

⑥ 差引計算すると4Qの利益率が大きく低下する見込みのようだがなぜか？

A: OLED 向け追加コストを見込んでいることに加え、例年同様、研究開発費等の固定費が4Qに偏っているため一時的な営業利益率の低下を見込んでいます。

【市場環境・今後の受注】

⑦ ロジック・次世代不揮発性メモリの受注見込みは？

A：ロジック分野には、今上期に初めて参入し、2社目の半導体メーカーでの採用が決まりましたので、来期以降、徐々に半導体関連の受注増に貢献してくると考えています。次世代不揮発性メモリPcRAMも複数社で採用が決定しており、今後の受注増に貢献してくると考えています。

⑧ FPD製造装置の市場環境、今後の投資の動きはどうか？

A：中国における大型TV向けLCDパネル製造装置のうちG10.5（世代）と言われる最大基板サイズの生産設備投資計画は、現在、今期末受注に向けて商談中です。G10.5の設備投資の第一陣はこれでひと段落すると言われていますが、複数のG8.5クラスの設備投資計画が引き続き検討されています。

スマートフォン向けのOLEDパネル製造装置は、今3Qに中国のフェーズ2となる量産ラインで継続受注が決まりました。引き続き、中国のスマートフォン向けOLED生産設備の増強計画は旺盛と認識しています。

また、韓国では、中国の大型TV向けLCDパネル生産設備の立ち上がりを受け、差別化戦略として、大型TV向けOLEDパネルの量産開発に取り組みだしており、数年後の本格投資が期待されるところです。

⑨ 半導体メーカーのメモリ投資はいつ頃から復活すると考えているのか？

A：半導体各社とも、昨年後半から投資計画を延期しているものの、今後の需要拡大に因應するために供給能力拡大が必要との認識に変わりはなく、年末までには投資再開するものと考えています。一部には投資再開の動きもありますが、他社への広がりまでには至っておらず、年内のいつ頃から本格的な投資再開となるのかについては私どもも確信を持っていません。

⑩ 来期計画はどのようになりそうか？

A：半導体設備動向等いまだ不透明な点も多く、来期計画につきましては、8月の18年度決算説明の際にご説明させていただきます。

以上